

SSHサイエンスツアー

10月15日(火)～17日(木)にかけて、1年生理数科を対象に、サイエンスツアーを実施しました。サイエンスツアーは、最先端科学の現状を理解し、科学に対する研究意欲を高めることを目的として「本物に触れ、一流の研究者に学ぶ」というスローガンのもと、毎年この時期に2泊3日の日程で実施しています。研修内容は幅広い分野にわたっており、普段、学校では学ぶことのできない事柄について、研究者の方からお話を聞くことで多くの知識を得ることができました。

1日目 東京大学駒場キャンパス

東京大学生産技術研究所の竹内渉先生と大学院生2人から講義を受けました。本校の卒業生でもある竹内先生はリモートセンシングに関して、わかりやすく説明してくださいました。

大学院生の2人からは、リモートセンシングを利用した具体的研究(リモートセンシングを使った能登半島地震による被害と復興の評価、太陽光パネルの稼働・種類の判別)の説明を聞きました。



東京大学本郷キャンパス

東京大学素粒子物理国際研究センターの寺師先生からLHCなどの加速器実験によって素粒子の性質について実験をしていることの講義を受けました。講義の後、量子デバイスを作る研究室を見学しました。

その後、キャンパス内の学食で夕食をとり、宿舎に移動しました。



宿舎にて関東の大学へ進学した理数科の先輩と交流しました。(2日目夜)

2日目 午前中は、全員で地質標本館に行ってきました。地質標本館では地球の起源、日本の地質や関東平野について学びました。午後からはつくば市内の物質・材料研究機構、バイオリソースセンター、防災科学技術研究所、KEKコミュニケーションプラザ(高エネルギー加速器研究機構)の4ヶ所にわかれ、グループ研修を行いました。

つくば研究学園都市



地質標本館



筑波宇宙センター (JAXA)



3日目 埼玉県和光市にある理化学研究所と、さいたま市にある鉄道博物館で研修を行いました。環境資源科学研究センター分子生命制御研究チームの萩原氏の講義を聞いた後、仁科加速器科学研究センターでは、研究員の渡邊氏の案内で、地下にある世界最大の超電導リングサイクロトロンを見学しました。生徒たちは本物の最先端科学について学び、充実した時間を過ごしました。その後、新幹線を使って七尾へ帰ってきました。



- 先端技術に触れることの面白さや、研究者の詳しいことなど、自分が進もうと思っていた進路の職業を知ることが出来て、将来の選択に繋がるとても良い経験が出来た。
- 様々な研究は私たちの将来に役立つことばかりで、そこに携わっている人たちはかっこいいと思った。
- どの研究も分野間を行き来した研究内容で1つの分野を極めるのではなく、多くの分野を学んでいくことが大事だとわかりました。
- ビッグバンが強いエネルギーを持った反物質どうしをぶつけ合って再現できると聞いたことにとっても驚き、一番心に残っている。
- 実際に研究者から話を聞いたり、加速器などの機械を見たりして、有意義な時間が過ごせた。

生徒の感想

